

# 第6学年3組 国語科学習指導案

令和2年12月2日(水) 5校時

授業者 鈴木 麻実

- 1 単元名 複数の文章を基に、「これからの社会と生き方」について自分の考えをもって話し合おう  
教材名 『メディアと人間社会』池上 彰 『大切な人と深くつながるために』鴻上 尚史 (光村図書)  
《資料》 プログラミングで未来を創る

## 2 単元の目標

- (1) 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。  
[知識及び技能] (1) 言葉の使い方に関する事項 カ)
- (2) 筆者の主張を的確に捉えるために、論の進め方や表現の工夫について考えることができる。  
[思考力・判断力・表現力等] (C) 読むこと ウ)
- (3) 複数の文章を読んで理解したことに基ついて、これからの社会と生き方について自分の考えをまとめることができる。  
[思考力・判断力・表現力等] (C) 読むこと オ)
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。  
[学びに向かう力、人間性等]

## 3 教材について

本単元は、小学校最後の説明文の学習である。児童がこれまでの学習を活用して複数の文章を重ねて読み、それぞれの筆者の主張を捉えたうえで、これからの社会と生き方について自分なりに考えをまとめ、他者と交流することで考えを広げていく学習を行う。

教材文『メディアと人間社会』は、人間のもつ欲求とメディアの発達との関わりについて、最初と最後の段落を呼応させる双括型の構成で、事例としてメディアの発達に関する事実を順序よく並べて筆者の論が展開される。また、もう一つの教材文である『大切な人と深くつながるために』は、具体例を示したり、問いかけたりしながら、コミュニケーションについて筆者の考えを繰り返し説明する形式で、筆者の論が展開される。内容としては、いずれの文章も筆者の主張が明確で、児童の日常生活と接点がある話題が取り上げられている。そのため、納得できる部分を考えたり、自分の知識や経験を想起したりしながら、情報化社会の中でどう生きていくべきかを考えるためのきっかけに適した教材と言える。また、二つの説明文は書きぶりが大きく異なるため、そこに目を向け比較することでそれぞれの筆者の主張をよりの確に捉えることができる。資料「プログラミングで未来を創る」と合わせて、複数の文章を読んでわかったことを引用しながら、各人の確かな考えの形成につなげられるようにしたい。

## 4 児童について (男子12名、女子13名 計25名)

児童は、「読むこと」の説明的な文章に関して、第6学年において本単元までに、筆者の主張とそれを支える事例を捉え自分の考えをまとめたり、筆者の考え方や資料や言葉の使い方の工夫を捉えたりする学習を行ってきた。

本単元の学習に関わって、次の内容でレディネステストを行った。

<内 容>	A	B	C
1 初見の説明文を「初め」「中」「終わり」に分けることができるか。	58% 正しく分けられる	38% 「初め」または「終わり」のどちらか一方は正しく分けられる	4% 正しく分けられない
2 内容を要約することができるか。	43% 筆者の主張と理由、事例を適切にまとめている	19% 筆者の主張を適切にまとめられない	38% 中心となる文を選べない
3 筆者の書きぶりの工夫(構成や表現)に気付くことができるか。	76% 構成または表現に着目し工夫を捉えている	0%	24% 問いに適切に答えられない。または無回答

特に2については、筆者の主張とその理由、説明のための事例等を適切に結び付けて文章にまとめることができた児童が43%であったのに対し、筆者が話題として挙げているものについては適切にまとめているものの、筆者の主張には触れていない児童が19%、また、要約のための中心となる文を正しく選べない児童が38%見られた。

大半の児童は、授業を通して全体で文章の構成を捉えたり筆者の主張を確認したりする時間をとると、そこから自分で適切に文章にまとめ、要約することができた。また、筆者の主張を本文から正しく見つけ、サイドラインを引くことについても、ほとんどの児童ができていた。しかし、初見の文章において、文章全体の構成を捉え筆者の主張を事例と関係づけて自分でまとめる力には課題があると言える。

## 5 指導にあたって

### (1) 本単元における言語活動

「複数の文章を基に、“これからの社会と生き方”について自分の考えをもち、話し合う」活動を位置付けた。  
(関連 [思考力、判断力、表現力等] C(2)ア)

### (2) 今年度のテーマにかかわって

「つけたい力を明確にした、教科の本質に迫る授業の実践」

本単元の目標は、筆者の主張を的確に捉えた上で、知識や経験と結び付けながら、自分の考えをまとめることである。レディネステストの結果から見ても、児童は筆者の主張を文章中から見つけることはできるものの、それと具体例や事例がどのようにつながっているのかについて正しく理解し、自分の言葉でまとめることには課題があることが分かった。その要因の一つとして、これまでの説明的な文章の学習では、構成や表現について取り上げ、検討する時間はあったものの、それらが筆者の主張とどのように関わってくるのかまでは、深く検討していなかったことが挙げられるのではないだろうか。

筆者の主張を的確に捉えるためには、論の展開や表現の仕方に注目し「構造と内容の把握」をしたり、「精査・解釈」したりすることが重要となってくる。書き手は自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのか、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのかなどについて考えることが、筆者の主張をさらに的確に読み取ることにつながる。それは、論の展開や表現の仕方にも筆者が自分の伝えたいことをわかりやすくするための意図があるという理解でもある。それが、本単元で児童に気付かせ、つけたい力である。

そして、論の展開や表現に目を向けるということは、まさに児童が言葉に着目するという国語の見方・考え方を働かせることである。見方・考え方を働かせて、正しく文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基に、自分の考えを形成することが教科の本質に迫る授業になると考える。

## 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。	①「読むこと」において、筆者の主張を的確に捉えるために、論の進め方や表現の工夫について考えている。 ②「読むこと」において、複数の文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	・複数の文章を読んで筆者の主張に対する自分の考えをまとめることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。

## 7 指導と評価の計画 (全6時間)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一次 (1)	1 ○単元の学習の見通しをもつ。  ○教材文を読み、それぞれの筆者の主張について初発の感想を交流する。	・「これからの社会」という話題を提示し、どのような社会になるかを想像したり、その社会ではどのようなことが大切になるかについて話し合ったりすることで、「これからの社会と生き方について考えを深めよう」という単元のめあてをもたせる。 ・筆者が伝えたいことについて、自分の考えを簡単に発言させる。	

二 次 ( 2 ) ( 5)	2〇「メディアと人間社会」を読み、論の展開のしかたや表現のしかたを捉え、筆者の考えを読み取る。 ○筆者の主張と論の展開や表現とのつながりについて考えたことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成、事例、表現の特徴について考えさせる。</li> <li>構造と内容を整理し、筆者の主張を捉えさせる。</li> <li>論の展開や表現の仕方の意図について考えさせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現〕 ノート、発言 事例や具体例、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、それぞれの文章の要旨を把握しているかの確認。</p> </div>
	3〇「大切な人と深くつながるために」を読み、論の展開のしかたや表現のしかたを捉え、筆者の考えを読み取る。 ○筆者の主張と論の展開や表現とのつながりについて考えたことをまとめる。 ○二つの説明文の論の展開や表現、主張を比較する。【本時】	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成、事例、表現の特徴について考えさせる。</li> <li>構造と内容を整理し、筆者の主張を捉えさせる。</li> <li>論の展開や表現の仕方の意図について考えさせる。</li> <li>二つの説明文の論の展開や表現の仕方を主張と結び付けながら比較することで、筆者の主張を的確に捉えさせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔知識・技能①〕 発言、ノート 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解しているかの確認。</p> </div>
	4〇それぞれの筆者の主張に対して、自分の考えをもち、全体で交流することで考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の知識や経験と結び付けながら、どちらの主張により共感するかなどについて話し合うことで、自分の考えを明確にしていく。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 ノート、発言 二つの文章の書きぶりに着目しながら、論の進め方について考え、筆者の主張を捉えているかの確認。</p> </div>
	5 《資料》「プログラミングで未来を創る」を読み、2つの教材文と合わせて、「これからの社会でどう生きていくか」について、自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元のめあてを意識しながら、《資料》「プログラミングで未来を創る」と2つの教材文を通読させる。</li> <li>三人の筆者の考えや文章を比べながら、具体的に自分の考えをまとめさせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現②〕 ワークシート、ノート 二つの文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめているかの確認。</p> </div>
	6 〇まとめた内容を基に話し合う。 ○話し合いを通しての感想を交流する。 ○単元全体の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者との意見交流を通して、自分の考えを広げさせる。</li> <li>話し合いそのものを振り返り価値づける。</li> <li>単元の学習計画や学習課題と照らし合わせて振り返りを書く。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現〕 ノート、発言 文章を読んでまとめたこれからの社会や生き方についての意見を共有し、自分の考えを広げているかの確認。</p> </div>

※ 評価規準・評価方法等については、記録に残す評価を実線枠で、指導に生かす評価を点線枠で示している。  
なお、国語科指導案においては指導に生かす評価は記載しなくてもよいものとする。

## 8 本時の指導（3／6）

### （1）本時の目標

叙述を基に論の展開や表現の仕方を捉え、それらに込められた筆者の意図について、自分の考えをまとめることができる。  
 ≪思考・判断・表現①≫

### （2）指導過程

時間	学習活動 主発問 (◎) 発問 (○) 指示 (□) 予想される児童の発言 (・)	支援や留意点 (・) 評価 (☆) 【方法】
3	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>□ 今日は鴻上さんの説明文について読み取っていきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     論の組み立てや表現の工夫に着目して、それらに込められた鴻上さんの意図について考えよう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を振り返ることで、論の展開や表現に着目して、そこに込められた筆者の意図をとらえるという学習の見通しをもたせる。</li> </ul>
15	<p>2 論の組み立てについて考える。</p> <p>□ 論の組み立てに着目して、読みましょう。</p> <p>○ 鴻上さんの文章を「初め・中・終わり」に分けるならば、どの段落で区切りますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「初め」は①だと思います。①は、話題提示で、「これからコミュニケーションについて話していきますよ」と言っています。②からは、そのコミュニケーションの説明になっているので、「中」になると思います。</li> <li>・②の「さて」という言葉も、話の切り替えで使われます。</li> <li>・「初め」は①②だと思います。③からが具体例のようなものが書いてあるからです。</li> <li>・「終わり」は⑦だと思います。まとめとして筆者の主張を言っているからです。</li> <li>・「終わり」は⑥と⑦だと思います。⑥はそれまでの具体的な話と違って、一般的な話をしているから、⑤と⑥が続かないと思います。</li> </ul> <p>○ 「中」は小さなまとまりに分けられるのでしょうか。分けられるとしたら、どのように分けますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・②③④段落は、コミュニケーションがどういうものかについて言っていると思います。</li> <li>・⑤段落は、どうやったら得意になるかだと思います。</li> <li>・⑥段落は、練習が必要な理由だから⑤とつながると思います。</li> </ul> <p>○ 「終わり」ではどのようなことを述べているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張です。</li> <li>・人とぶつかることが、あなたがあなたの人生を生きるということだ、と言っています。</li> <li>・ぶつかっても「コミュニケーションの練習だ」と思っていてほしい、と言っています。</li> <li>・そうすれば、あなたは大切な人と出会い、深くつながっていく、と言っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに、文章の構成や論の展開を意味する言葉として「論の組み立て」という言葉を児童と共有する。</li> <li>・「初め・中・終わり」の区切りを考えながら黙読または音読させる。</li> <li>・ノートに自分の考えを書いた後で、トリオで考えを伝え合い、根拠を話し合わせる。</li> <li>・考えが一致しなかったトリオや考えが変わった人がいるトリオを取り上げることで、確認すべき点を明らかにする。</li> <li>・これまで学習してきた、つながり言葉や段落どうし関係に着目させることで、まとまりに気付かせる。</li> <li>・拡大した本文掲示を活用し、叙述を確認しながら理解を深めていく。</li> <li>・構造図に整理しながら、内容について簡単な見出しをつける。</li> <li>・叙述を基に、具体例が何のために出されているのかについて考えさせる。</li> <li>・「メディアと人間社会」の構造図と比較して考えることで、「中」の展開の仕方が異なることに気付かせる。</li> <li>・⑦段落を全体で確認し、筆者が伝えたいのはどの文章なのか、何を伝えようとしているのかについて、考えさせる。</li> </ul>

7	<p>3 表現の仕方について考える。</p> <p>○ 鴻上さんの文章の表現の仕方、特徴的だなと思うところ はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読んでいる人に語りかけるように書かれています。</li> <li>・問いかけがいくつかあるので、話しているような気になります。</li> <li>・「あなた」という言葉をたくさん使っています。</li> <li>・「そう」や「だいじょうぶ」という言葉が優しいです。</li> <li>・具体例も身近でわかりやすいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをもつために、表現の仕方に着目し本文を読む時間をとる。</li> <li>・問いかけがどこにあるかを確認し、構造図と結びつけることで、話の転換場面で問いかけを使っていることにも気付かせたい。</li> </ul>
15	<p>4 論の展開や表現の仕方に込められた筆者の意図（主張とのつながり）について考える。</p> <p>◎ 鴻上さんのこのような論の展開や表現の仕方は主張とどのようにつながってくるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語りかけるという表現の工夫を使うことで、コミュニケーションで苦しくなっても、がんばってほしいと伝えています。</li> <li>・遊びやスポーツを具体例にだすことで、小学生にも共感してもらい、これからの社会を生きる子どもたちにコミュニケーションが得意な大人になってほしいと伝えていると思います。</li> <li>・「あなた」という言葉をたくさん使うことで、自分事として受け止めさせて、コミュニケーション上手な大人になって、大切な人とつながってほしいと言っています。</li> <li>・コミュニケーションの大切さを伝えたいから、鴻上さん自身が、読んでいる人とつながれるように、語りかけや問いかけがたくさんあるのだと思います。</li> <li>・コミュニケーションの説明をするときに、遊びの場面を具体例にすることで、私たちにも経験があることを理解させたいのだと思います。</li> <li>・スポーツの練習の話をするので、練習すれば上達するということを納得させ、コミュニケーションの練習も上達するための方法だということに説得力をもたせていると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半で捉えた文章の特徴を確認し、その特徴に込められた筆者の意図を考えさせる。</li> <li>・池上さんの論の展開や表現の仕方との違いを確認することで、鴻上さんの意図を考えやすくする。</li> <li>・自分の考えが書けない児童には、表現の工夫から一つ取り上げ、その工夫のよさについて考えさせる。</li> <li>・表現のよさへの気付きに留まっている児童には、そのよさが何とつながるのかを問い返すことで、表現の効果と筆者の主張とのつながりに目を向けさせたい。</li> <li>・前半でまとめた板書や、叙述で確認しながら話し合いを進める。</li> </ul> <p>《思考・判断・表現①》</p> <p>☆筆者の論の展開や表現の仕方を、筆者の主張と結び付けて捉えているか。【ノート】</p> <p>B:筆者の意図として、論の展開または表現の仕方が筆者の主張に結び付くことを自分の言葉でまとめている。</p>
5	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>□ 今日の学習で考えたことを振り返りに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論の組み立てがしっかりわかってよかったです。</li> <li>・鴻上さんはこんなに表現の工夫をしているのだなと思いました。</li> <li>・筆者は自分の主張を伝えるために論の展開や表現を工夫しているということがわかりました。</li> <li>・論の展開や表現の仕方に注目すると、筆者の言いたいことがよりわかるようになってきました。</li> <li>・最初はよくわからなかったけれど、みんな話を聞いていたら表現の工夫と筆者の言いたいことがつながっているのだと思いました。</li> <li>・初めて読んだ時から、鴻上さんの文章のほうが好きだと思っていましたが、今日の学習でもっと好きになりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書けた人同士で交流させ、全体で紹介したいものを見つけさせ、共有する。</li> <li>・主発問についての話し合いを通して、論の展開や表現の仕方と筆者の主張とのつながりについて気付き、振り返りでまとめられることを期待したい。</li> <li>・指導過程4でもった自分の考えと、振り返りの内容を総合的に見て評価につなげる。</li> </ul>